

## 第2回 病理部会 議事録

日時：2010年7月10日(土) 17時00分～18時00分

場所：麻布大学 8505室

出席者(順不同、敬称略): 代田欣二、三好宣彰、野村耕二、賀川由美子、三井一鬼、難波裕之、下山由美子、阿野直子、江永真哉、山上哲史(合計10名)

委任者(順不同、敬称略): 尾崎清和、鈴木学(合計2名)

議長、書記: 山上哲史(学会役職: 理事、評議員、病理部会長)

下記のとおりご報告申し上げます。

### 1. 報告事項

- (1) 病理部会の新メンバーとして、佐古敏郎先生(パソラボ)と寺澤義朗先生(新潟県開業)の2名の参加希望があり、次回からの部会参加を依頼した件が報告された。
- (2) 学会雑誌に連載中の技術講座「病理検査をよりよく利用するために」の第2回が、Vol.1 No.2に掲載され、今月末に発行予定である件が報告された。残る3回(計5回)の連載のあとは、他の部会で連載企画を持ち回る予定であることが報告された(次回は内科部会の予定)。

### 2. 審議事項

- (1) 学会での発表予定症例の病理診断セカンドオピニオンについて  
理事会、評議員会から要望のあった本件であるが、発表者と、もともとの病理診断医でまずディスカッションしていただくことが最善最良であろう、という意見が多数であった。病理組織診断書には、診断症例を学会等で公表される場合にはご一報ください、との注意書きがあるにも関わらず、現状では病理診断医には一切連絡がない場合が多いため、発表症例を事務局で受付する際に、必ず病理診断医と連絡を取るよう発表者にお伝え頂く、あるいは学会HP上に明記することを理事会に要望することが了承された。
- (2) 学会会員の日常症例に対する病理診断セカンドオピニオンについて  
学会発表症例だけでなく、日常症例の病理診断セカンドオピニオン実施の可能性に関して審議した。国内では、日本獣医病理学会の動物腫瘍診断基準策定委員会が、国内の病理診断基準の標準化に向けた活動を先行させている。本部会メンバーはコマーシャルラボの診断医が多いが、現段階で本学会会員の日常症例に関する病理診断セカンドオピニオンを本部会主導で実施するには、システム、ファイナンス、診断プライオリティなど解決すべき問題が多いであろう、との点において意見の一致をみた。

### 3. 次回会議 開催予定

未定

以上(文責: 山上哲史)